

「すべての学校、すべての学級で実践する特別支援教育の推進」を目指して

# 「調布市特別支援教育全体計画」を改定

教育委員会では、平成25年3月に策定した「調布市特別支援教育全体計画」に基づき、特別支援教育に必要な環境整備などの取組を実践し、検証してきました。

これまでの3年間の取組の成果と課題を踏まえ、また、国や東京都の動向や平成27年3月に修正・改定された「調布市基本計画」及び「調布市教育プラン」との整合性を図るため、「調布市特別支援教育全体計画」の改定を行います。

平成28年度から30年度の3年間は、「調布市特別支援教育全体計画【改定版】」に基づき、すべての学校、すべての学級で実践する特別支援教育を推進してまいります。



特別支援教育推進のための4つの視点と主な取組

### 視点1 特別支援教育の充実を図る環境を整備する

- ・平成28年度からは、4つの小学校(石原、飛田給、柏野、調和)を特別支援教室拠点校とします。その他の学校には、新たに特別支援教室を設置し巡回校として位置付け、4校の拠点校から巡回指導教員を派遣する巡回指導を行います。
- ・特別支援学校や特別支援学級との交流活動や共同学習の機会の拡充を図ります。

### 視点2 就学前から進学・就労までを見通した支援の基盤を形成する

- ・就学前からの支援等を学校につなぐための「就学支援シート」の啓発や活用を推進します。
- ・研修会や教員向けの啓発資料を作成し、特別な支援を要する児童・生徒に対しての個別の教育支援計画等の作成と活用の充実を図ります。
- ・個別の教育支援計画等を上級学校や就労先につなぐ工夫を検討し、進路指導の充実を図ります。

### 視点3 教員等の指導力向上を図る

- ・精神科医、言語聴覚士、心理士等による「調布市特別支援教育専門家チーム」による通常の学級における巡回相談の充実を図ります。
- ・相談の活用や校内研修の充実を図り、学級担任等の資質・能力の向上を図ります。
- ・スクールサポーターや特別支援学級介助員等の役割の明確化や研修会等の実施により、資質・能力の向上を図ります。

### 視点4 児童・生徒一人一人の能力や可能性を伸長する

- ・物的環境(ハード面)・人的環境(ソフト面)の両面から基礎的な環境の整備を行います。
- ・他機関との連携を強化し、さまざまな側面から児童・生徒の育成を図ります。

問合せ/指導室 ☎481-7480

## 「平成27年度調布っ子夢会議」を開催しました

～わたしたちが考える未来の調布～

2月6日(土)に、調布市文化会館たづくり大会議場で「平成27年度調布っ子夢会議」を開催しました。調布っ子夢会議は、調布市子ども条例第12条第1項に基づき、子どもの社会参加を目的に、子どもたちの自由で夢のある意見を発表する場として開催しています。平成12年度から始まり、今回で16回目を迎えました。

今年度は、市内の小学校6校から選ばれた12人の子どもたちが、「わたしたちが考える未来の調布」というテーマについて一生懸命考えた自分の意見を、たくさんの人の前で堂々と発表しました。発表後には大和田教育長から表彰状が授与され、「調布の未来を託します」という言葉に、子どもたちはみんな誇らしげな表情でした。



▲発表(左)と表彰状授与(上)の様子



▲教育長・教育委員と一緒に記念撮影

### 調布っ子夢会議 発表者一覧

(発表者は全員小学校5年生。敬称略)

発表順	小学校	氏名	作文タイトル
1	第三	吉野 将貴	ぼくたちみんなの調布
2	深大寺	石川 夏芽	みんなで助け合える調布市
3	緑ヶ丘	松永 一汰	国際化された調布市
4	染地	福居 雪花	笑顔あふれる調布市
5	晃華学園	内田 暁姫	なっぺほしい調布
6	調和	井内 大凱	私が考える未来の調布
7	第三	濱田 莉名	私達が考える調布
8	緑ヶ丘	横山 優	緑あふれる街、「調布」
9	染地	石田 圭	すみやすい町、調布
10	調和	安江 凜	調布市をハリウッドへ
11	深大寺	河井 友宏	未来の調布は夢の世界
12	晃華学園	鈴木 乃依実	人とのふれあいと人の心
司会		中島 克巳	(シニアリーダー講習会受講生。高校3年生)
		忠岡 佑佳	

問合せ/社会教育課 ☎481-7490

# 随想

## いつでも、どこでも、あいさつができる人に 神代中学校長 田村 昇



職務柄、市内外問わず、他校へ出かける機会が多くあります。「こんにちは」「さようなら」のあいさつがよくできる学校ほど学校に活気があり、部活などの成績も良く、いじめ等も含め問題も少ないように思います。あいさつがよくできる学校は、来校者から褒められることも多く、それがまた学校づくりに良い影響を与えているのかもしれない。こうしたことを思うたびに学校の善し悪しは第一印象が大事だと感じます。

神代中学校は、今年度、都内の公立中学校の中では生徒数、クラス数ともに一番大きな学校になりました。赴任して二年目になりますが、あいさつがよくできる学校の部類に入るのはないかと思っています。子どもたちの元気な声を聞くたびに、自分も頑張ろうとする気持ちになります。これからも、いつでも、どこでもあいさつができる生徒を、教員、保護者、地域の方と力を合わせ育てていきたいと思っています。

## しなやかに

## 第三中学校長 黒澤 錬二



私は新任の頃は、生徒と部活動で汗を流し、卒業式で合唱を共に歌い、近い距離感でした。いつのまにか保護者も同年代になる頃は、親心に共感し、それを生徒に伝えるようになっていました。最近、保護者も教え子年代に入り、生徒は孫年代?という感じで、学校を大局的に見ていくようになりました。それぞれの年代では、教員の持ち味が違い、生徒にとっては、いずれも一人の大人との貴重なふれあいの場でもあります。

中学時代は、子どもから大人になる準備段階です。揺れて親に反抗したり、難しいことを言ってきたりします。でも、それは想定内で、その時に子どもを受け止め、信じてあげることができるかは保護者の育ててきた自信によります。そのとき、ここぞとばかり胸を張って、今までの成長を見守り支えてきた心意気を子どもに伝えたいものです。それができることが子育ての責任です。

保護者と教員は役割が違いますが、子どもを思う心は一つです。伝え方はさまざまでも、子どもには何事にもしなやかに対応する力を身に付けてもらいたいものです。

●【就学相談(平成29年度入学)のご案内】平成29年4月入学予定のお子さんで、市立小学校に設置されている特別支援学級・通級指導学級及び特別支援教室(巡回指導)への入級や、都立特別支援学校への入学を希望される場合は、就学相談へのお申込みが必要です。お早めに保護者の方から教育相談所(☎481-7634)にお電話ください。